



## 2022年度 カブトガニ幼生生息調査結果

### 1 調査方法

#### (1) 調査場所

山口湾において砂泥質で生息数が多い『長浜』・『南潟』(図1)。

#### (2) 調査手法

設定した調査ライン上を1～3人で歩き、1ライン当たり2m幅で発見したカブトガニ幼生について、①個体数、②前体幅(図2)、③発見地点を記録しました(ベルトトランセクト法)。

長浜では16m間隔で20ライン(1,020m)、南潟では60m間隔で5ライン(1,000m)で実施。

#### (3) 調査日時

- 長浜：2022年8月27日 11:00～15:15 (大潮・最干14:56)
- 南潟：2022年9月8日 11:00～13:15 (中潮・最干13:13)

#### (4) 調査人数

- 長浜調査：24人 ※新型コロナウイルス感染症拡大のため、ボランティアの協力を中止し、委員のみ・偶数ラインのみで実施。
- 南潟調査：11人



図1 調査場所

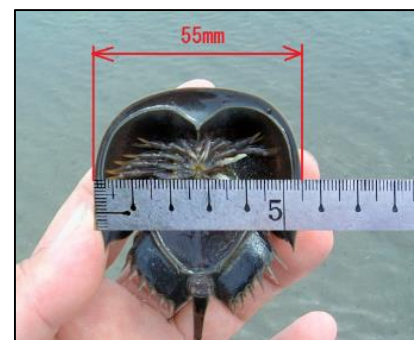


図2 前体幅の計測

### 2 調査結果

#### (1) 発見個体数

長浜で598個体、南潟で79個体が確認されました(図3)。長浜は、偶数ラインのみで調査を実施したため、発見個体数を2倍した値です。

#### (2) 推定個体密度

調査範囲から試算した1ヘクタール当たりの推定個体密度は、長浜147個体/ha、南潟82/haでした(図4)。長浜は概ね横ばい、南潟は2021年に減少しており、注視する必要があると考えます。

#### (3) 齢数の構成

前体幅から幼生の齢数を推定したところ、2006年には約7割が7齢(孵化から約4年目)で構成されていましたが、近年は3～6齢の若い齢数の割合が増加し、多様化がみられています(図5)。

#### (4) 生息地点

ライン別の個体数をみると、長浜は、西側のライン11～20(特に沖側)が減少傾向にあります。南潟は、ライン4が2013年から減少傾向にあります(図6)。

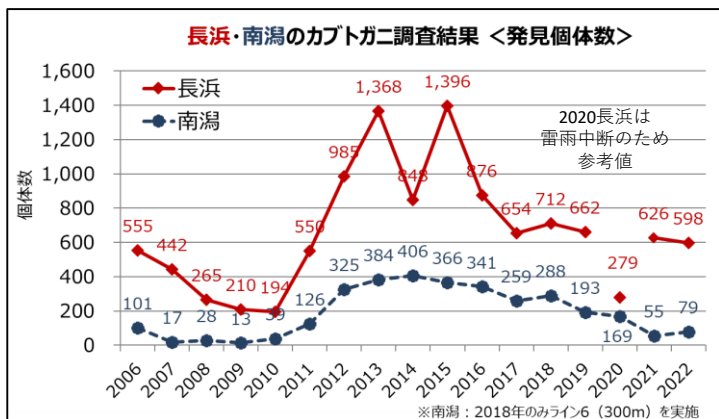


図3 カブトガニ幼生の発見個体数

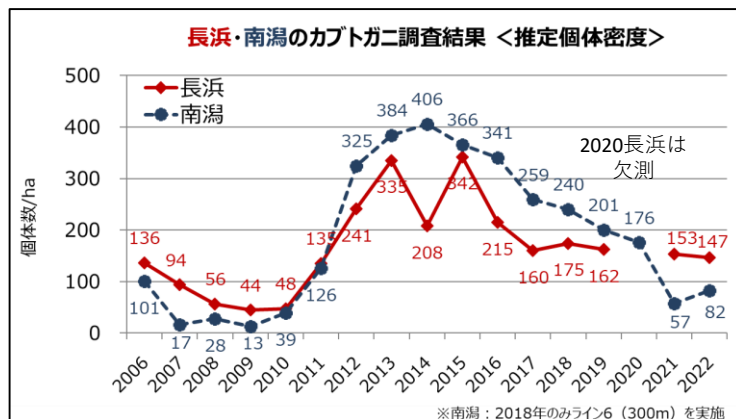


図4 カブトガニ幼生の推定個体密度

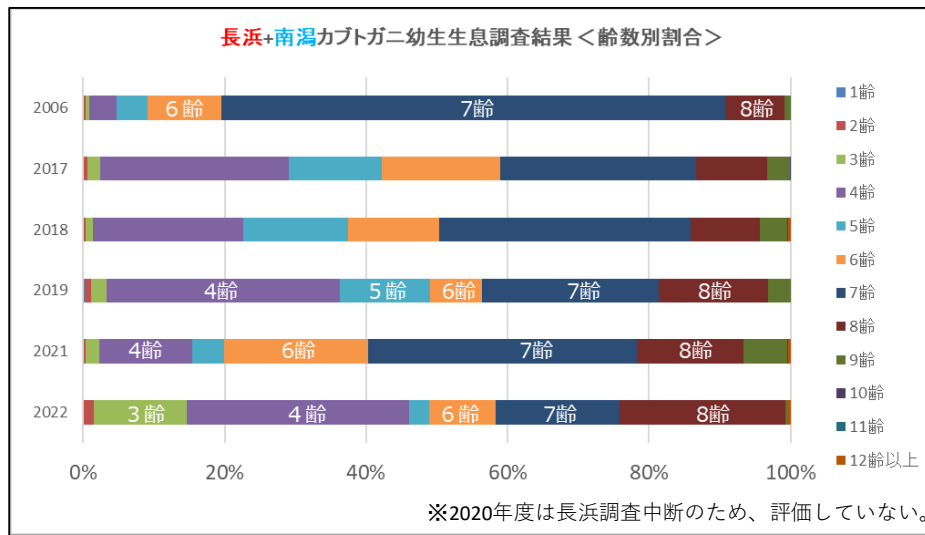


図5 カブトガニ幼生の齢数

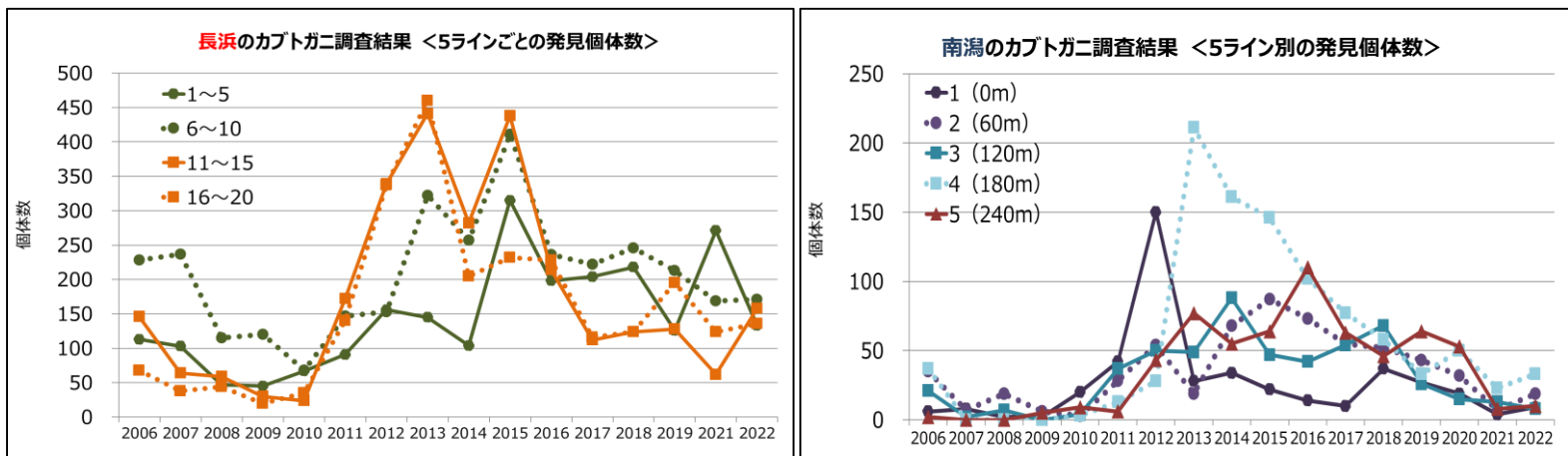


図6 カブトガニ幼生の発見個体数 (ライン別)

### 3 産卵調査

#### (1) 調査

- ・ 時 期：2022年6月～8月
- ・ 場 所：周防大橋東岸
- ・ 実施者：山口カブトガニ研究懇話会(酒井 大樹 氏からデータ提供)
- ・ 方 法：満潮時刻前に、海岸等を歩き、産卵に訪れているつがいを計測

#### (2) 結果

年	つがい数	最高数/日	調査回数	調査時期
2016	411	103	25	7/7～8/17
2017	1,122	143	36	5/26～8/11
2018	701	131	42	5/17～8/12
2019	856	112	35	6/1～8/6
2020	709	89	41	6/5～8/10
2021	633	117	39	6/9～8/10
2022	379	65	37	6/12～8/14



図7 カブトガニのつがい

### 4 おわりに

山口湾のように、ボランティアや大学等の多くの協力を得て、カブトガニの大規模な生息状況調査を実施している地域は無く、貴重なデータが蓄積されています。本活動は、国連生物多様性の10年日本委員会の「生物多様性アクション大賞2017（まもろう部門）」に入賞しており、絶滅の危機に瀕しているカブトガニを守るためのも大切な活動です。今後も活動を継続し、住民等へのカブトガニ保護の啓発に努めていきたいと考えています。